令和６年度実施　大阪府民の「健康と生活に関する調査」報告書【概要版】

大阪府民のみなさまのこころやからだの健康に関するアンケート調査を取りまとめました。

この調査は、令和５年３月に策定された「第２期大阪府ギャンブル等依存症対策推進計画」に基づいて、府民のみなさまのこころやからだの健康、生活習慣、ギャンブル等の参加状況等をお聞きし、ギャンブル等をはじめとした依存症対策を考えるための基礎資料とすることを目的としております。

■調査の概要

　調査は次の通り実施いたしました。

◯調査実施主体　大阪府こころの健康総合センター

◯対象者　大阪府在住の18歳以上の人18,000名（住民基本台帳から無作為に抽出）

◯調査・回答方法

郵送にて自記式アンケート調査票を送付し、郵送かインターネットのいずれかで回答。

◯調査期間 令和６年10月1日から10月31日

◯調査内容

基本属性・背景情報、ギャンブル等※行動、ギャンブル等関連問題、ギャンブル障害の

スクリーニングテスト⑤クロスアディクション、その他

※　本調査における「ギャンブル等」とは、結果が偶然性に左右されるゲームや競技に対して、金銭を賭ける行為のことを言います。また、競馬、競輪、競艇などの公営ギャンブル、パチンコ・パチスロのほか、宝くじやスポーツ振興くじ、証券の信用取引（FX）を含みます。

■調査への回答

調査への回答者数は次の通りです。

◯発送数　18,000票

◯有効回答数と内訳

6,731票（回収率37.4％）

【内訳】（回答方法）郵送回答4,698票、 WEB回答2,033票、（性別）男性2,977人票、女性3,672票

※性別は、その他、答えたくない、無回答の者は掲載していないため、全体値と一致しません。

本調査のためにご協力をいただきました全ての方々に深くお礼を申し上げるとともに、今後の調査にもご協力をいただきますようよろしくお願いします。

調査の結果概要

１．「ギャンブル等依存が疑われる者」の推計値

SOGSを用いて、過去１年間以内のギャンブル等の経験等の評価を行いました。

　SOGS （The South Oaks Gambling Screen）は、アメリカのサウスオークス財団が開発した病的ギャン

ブラーを検出するための自記式スクリーニングテストです。ギャンブル障害に関する国内外の疫学調査

で数多く採用されています。16問（うち４問は得点対象外）の質問で、得点範囲は0点から20点となり

ます。本調査は、合計5点以上の人を「ギャンブル等依存が疑われる者」、合計３点から４点の人を「ギ

ャンブル等依存のリスクがある者」としています。

①過去１年間におけるギャンブル等依存が疑われる者（年齢調整後のSOGS得点分布）

２．ギャンブル等行動について

①ギャンブル等経験率

生涯のギャンブル等経験率と過去1年間のギャンブル等経験率のいずれも男性の割合が高くなっています。

②ギャンブル等を開始した年代、習慣的にするようになった年代

多くの人が、20歳代・10歳代でギャンブル等を開始・習慣的にするようになっています。

③過去１年間に最もお金を使ったギャンブル等

全体では、「宝くじ（スクラッチ、ロト等）」に最もお金を使った割合が高くなっており、ギャンブル等依存が疑われる者では、「パチンコ」の割合が高くなっています。

④過去１年間にギャンブル等に使った金額（１カ月当たり）

過去１年間にギャンブル等に使った金額（１カ月あたり）は、ギャンブル等依存が疑われる者の方が、中央値と平均値が高くなっています。

⑤過去１年間の公営競技等の券の購入方法

「宝くじ（スクラッチ、ロト等）」は、およそ８割の人が売り場で購入しており、その他は「主にインターネット（オンライン）で購入」が半数以上となっています。

３．ギャンブル等と関連する問題

それぞれの尺度を用いて、ギャンブル等依存が疑われる者とそうでない者を比較しました。

①ギャンブル等依存と飲酒問題

今回の調査では、飲酒問題との関連は明確ではありませんでした。

②ギャンブル等依存と喫煙

ギャンブル等依存が疑われる者は、煙草を今も吸っている割合が高くなっています。

③ギャンブル等依存と抑うつ、不安

ギャンブル等依存が疑われる者は、重度のうつ・不安障害が疑われる割合が高くなっています。

④ギャンブル等依存と希死念慮

ギャンブル等依存が疑われる者は、希死念慮を有する割合が高くなっています。

４．家族や重要な他者のギャンブル等問題

①家族や重要な他者にギャンブル等問題がある（あった）人の有無

家族や重要な他者にギャンブル等問題がある（あった）人が「いる」と回答したのは16.8でした。

②ギャンブル等の問題がある（あった）人（上位６項目）

③その人から受けた影響（上位５項目）

家族や重要な他者にギャンブル等問題がある（あった）人は「父親」が6.9％です。受けた影響は、「浪費、借金による経済的困難が生じた」の割合が高くなっています。

④家族や重要な他者のギャンブル等問題があった人の有無と抑うつ、不安との関連

家族や重要な他者のギャンブル等問があった人がいると、何らかのうつ・不安の問題がある※可能性が高くなっています。（※K6得点が５点以上）

５．依存症に対する認識等

①ギャンブル等依存症対策に関する認知

ギャンブル等依存症対策の認知度は、いずれの項目もおよそ５から10％と低い傾向にありました。

②ギャンブル等依存症に対する認識

③「ギャンブル等依存症は病気である」という認識

「ギャンブル等依存症は病気である」の認識は全体では83.9％でした。

年代別で見ると、40歳代が最も高く、20歳代から50歳代は90％を超えていました。

参考資料　大阪府及び全国のギャンブル等依存症にかかる実態把握調査結果

おおさか依存症ポータルサイト

依存症に関する様々な情報や、大阪府内の医療機関・相談機関等を検索することもできます。

<http://www.oatis.jp/>

依存症の自助グループ、回復施設、民間支援団体の情報はこちら

<http://www.oatis.jp/group/>

発行　令和７年３月　大阪府こころの健康総合センター　相談支援・依存症対策課

〒558-0056　大阪府大阪市住吉区万代東3丁目1-46

本調査は、令和６年度依存症対策強化事業（大阪府・大阪市共同事業）において実施しました。